



「仕分け」をしていますか？

気がつくともう年の瀬です。皆さんは、明るく、元気に新しい年を迎えられそうですか？さて、この2学期のテーマとして、「トラブルメーカー」について書いてきました。そもそも、この「トラブルメーカー」という言葉自体よくない印象があるので、「私はこうなりたくない」と誰もが思うのではないかと思います。さらには、コミュニケーションに関することが書かれている本やSNSのサイトの中で、身近に自分自身にとっての「トラブルメーカー」がいる場合、「できるだけ関わらないようにしましょう」とアドバイスする、自称「専門家」もいるくらいですから、なおさら嫌になると思います。しかし、次の3つのことを皆さんに知ってほしいのです。

- 1つ目は、「トラブルメーカー」と言われる側面を自分自身が持っている。
- 2つ目は、こうした側面があることを受け入れて行動することが大切である。
- 3つ目は、身近にそういう人がいたら、その人の本質をしっかりと確かめ、認めてあげてほしい。

なぜ、このようなことを言うかということ、誰もが「自分はトラブルメーカーではない」と思っているのですが、先月号で触れたとおり、誰もが「トラブルメーカー」になる要素を持っているからです。そして、その要素というものは、対人関係においてどのように表現するかで、「トラブルシューター」(問題を解決する人)にもなれる要素だからです。そこで、このことを少し具体的に見ていきましょう。

要素 ① 性格が内向的

性格が内向的な人は、「視野には自分のことしか入らない」とか、「周りのことは気にならない」などと言われ、「相手に合わせようとしなからイライラする」などの感情から、「トラブルメーカー」というレッテルを貼られたりします。しかし見方を変えると、「深く物事を考えている」とか、「マイペースな人」と言えるわけです。ですから、時間をかけてでも重要な決断をする必要がある場合は、こうした性格の人に判断を仰ぐといいと思います。



要素 ② 独自の世界観を持っている

自分の世界観が強い人は、他人には理解しがたく、「場違いな言動を取る人」とか「デリカシーがない人」などと言われ、一匹狼になることも多いようです。しかし見方を変えると、「物事があるべき姿を見通している」とか、「誰も気づかない視点でものを見ている人」と言えるわけです。ですから、物事が煮詰まって解決法が見つからない場合は、こうした世界観を持った人に相談するといいと思います。



要素 ③ 自分の能力を過信している

自分の能力を過信する傾向がある人は、周りからの指摘や注意があっても、「何が問題なんだろう」とか、「なぜ皆私に怒っているんだろう」と思うことが多く、「あんなに自信があるくせに全く仕事できていない」などと思われてしまいます。しかし見方を変えると、「物事を前向きに捉えている」とか、「目標に向かって、努力しようとする人」と言えます。ですから、たとえば困難に直面し、その場の雰囲気の前向きにしたい時には、こうした人の意見を聞くといいと思います。



今回も紙面の都合で3つの例しか書けませんでした。ここに書いたように、「トラブルメーカー」になり得る要素というのは、悪いことばかりを引き起こすものではないのです。大切なことは、自分自身に何ができるのかを探ることです。そして、できないことはできる人に助けてもらう関係を築いていくことではないでしょうか。このように自分自身を「仕分け」することで、あなたの隠れているすばらしい一面を引き出すことができるのです。

スクールカウンセリングのご案内

来月は、次の日程でスクールカウンセリングを行います。
気持ちが少し疲れて、誰かと話してみたいと思う人は、教育相談室まで申し出てください。

第1回 1月14日(火) 第2回 1月28日(火)

※ スクールカウンセラーの先生のご都合等で日程が変更になることもあります。